
認定特定非営利活動法人 トリトン・アーツ・ネットワーク
評価事業報告書 2020

2021年7月

トリトンアーツ評価委員会

この報告書は、認定 NPO 法人トリトン・アーツ・ネットワーク（以下「トリトンアーツ」）の 2020 年度の活動に関する、第 7 期評価委員会による報告書です。

2020 年は、とくに西洋芸術音楽（「クラシック音楽」）の世界では、250 年前に生まれたルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン（1770-1827）を記念する華やかな催しがあふれるはずでした。（トリトンアーツが拠点とする晴海地区ではさらに、東京オリンピック・パラリンピックによって賑わっていたはずです。）ベートーヴェンは 12 月半ばに生まれたとされ、秋にコンサートシーズンが始まるヨーロッパでも、また 4 月から新年度が始まる日本においても、年末に向けて「盛り上げ甲斐のある」存在でした。しかし満を持してこの年を迎えた音楽関係者たちの、またこの年の催しをたのしみにしていた愛好家たちの望みの前に、Covid-19（新型コロナウイルス感染症）の世界的な感染拡大が立ちはだかりました。数多くの催事が延期、そして中止され、本邦ではコンサート・ホールも学校も閉じられました。こうして 21 世紀序盤、ベートーヴェンが生きた時代に比べてはるかに多くの科学的知見と技術に恵まれているはずの私たちは「巣ごもり」を迫られ「うちで踊ろう」と呼びかけられ、未知の生活を過ごし、他方で多くの尊い命を失いました。もっとも感染症に翻弄されるこのような事態は、ベートーヴェンにとっては今日のハイテク技術よりは想像できる範囲のことだったかもしれません。音楽史ではあまり語られませんが、当時はまだペストも天然痘も身近なものであり、ほかならぬベートーヴェンその人も、そしてハイドンもモーツァルトも天然痘の経験者でした。わずか 1 年前に想像できなかったこの生活はじつは、人類の歴史と分かちがたい感染症との関係という点で、ベートーヴェンの時代と今日の近さを示していたとも言えるのです。

2020 年度は年度始めの 4 月 7 日に新型コロナウイルス感染症に関する緊急事態の発生が宣言され、文字通り Covid-19 感染症とともにありました。それに対するトリトンアーツの取組については報告本文に譲るとして、ここでは評価委員会編成の経緯をごく簡単にまとめます。

この例外的な年度は第 7 期評価委員会の初年度にあたりますが、「日常」が機能しない状況において、NPO、公共ホール、アートマネジメント、文化政策の分野においてそれぞれ最前線で活躍する方々にご参集いただき、2020 年 10 月に委員会の構成が確定、委員は可能な限り年度後半の公演・活動を視察して年度を終えました。年度終盤からは遠隔会議システムを用いて 3 回の会議を、オブザーバーのお二人、そして事務局員 1 名とともに開催しました。そもそも初年度で委員長が不慣れななか、このような前例のない状況で円滑に報告をまとめることができたのは、関係みなさまのご協力のおかげにほかならず、ここに心より御礼申し上げます。

2021 年 5 月

トリトン・アーツ・ネットワーク 第 7 期評価委員長
小岩信治

第 I 部 トリトンアーツ事業への評価について

2020 年度はトリトンアーツ評価委員会の第 7 期初年度にあたり、2020 年度 10 月に委員会を編成、委員の構成が確定し、2021 年に入って 3 回の委員会を開催、トリトンアーツの上記年度の活動を評価しました。

認定 NPO 法人トリトン・アーツ・ネットワーク第 7 期評価委員会

1. 委員会メンバー

- 委員長 小岩 信治（一橋大学大学院言語社会研究科 教授）
- 委員 新治 満（中央区文化・国際交流振興協会 事務局長）
- 委員 大塚 真実（三鷹市スポーツと文化財団芸術文化課 主任・音楽企画員）
- 委員 佐藤華名子（企業メセナ協議会）
- 委員 佐藤 良子（芸術文化観光専門職大学 研究支援コーディネーター）
- オブザーバー 的場 康子（第一生命経済研究所）
- オブザーバー 有働 洋（第一生命 コーポレートコミュニケーション部）
- 事務局 武田 有里（一橋大学大学院言語社会研究科博士課程）

2. 2020 年度評価委員会開催記録

- 第 1 回 2021 年 3 月 3 日（水） 15:00～17:00
 - 第 2 回 同 年 4 月 16 日（金） 10:00～12:00
 - 第 3 回 同 年 5 月 13 日（木） 13:00～15:00
- いずれも遠隔会議システム zoom を使って開催

3. 第 7 期評価活動（第 1 年次）概要

第 1 年次の評価は、評価委員会の実質的な発足が年度後半であったこともあり、トリトンアーツ提供の資料、および、可能な範囲で委員が訪問した事業についての所見をもとに、トリトン・アーツ・ネットワークの仲野邦彦事務局長、田中玲子・エグゼクティブプロデューサーの出席のもと、上記 3 回の委員会を実施してとりまとめました。

第 1 回委員会ではトリトンアーツからの事業報告とともに、この委員会の業務と今後の日程を確認しました。第 2 回委員会では、第 6 期評価委員会の活動を参考に今期の評価項目を検討し、

- 1) 第 6 期で用いられた 4 つの評価区分（トリトンアーツの事業区分に対応）を継承する
- 2) 加えて事業間の連携に関する第 5 の評価区分を設定する
- 3) 各評価区分のなかの具体的な評価項目を、以下Ⅱの活動評価 2.2. に挙げたものに定める
- 4) その際評価項目は、定点・継続評価する「基本項目」（下線付きで表示）と年度ごとに課題を設定する（年度・個別）「目標項目」とにわけ

の 4 点について合意しました。第 3 回委員会ではこれらの評価区分、評価項目、指針に従って委員が評価を持ち寄り、委員会としてトリトンアーツ 2020 年度の評価を大枠として確定しました。Covid-19 感染拡大という突発的かつ例外的な環境のもとでの活動を評価するにあたって、2019 年度評価とは異

なり、その特殊要因と通常期の評価を完全に仕分けることは困難です。そこで一方で両者を切り分けて評価することを試みつつ、それらが重なり合う領域での評価も不可避かつ必要となったことを付記します。以下に示す報告Ⅱの「2. 評価委員会による評価」は、第3回委員会での検討結果を当日の主要な論点とともにとりまとめ、後日に委員の確認を経て確定したものです。

第Ⅱ部 2020年度活動評価

1. トリトンアーツによる評価

2020年度は、前年度末からの新型コロナウイルス感染症の影響が増大し、4月早々に最初の緊急事態宣言が発令されるという波乱の幕開けとなりました。その後宣言が解除された後も、客席収容率が半分となったり、最前列は空席とするなどこれまでにない対応が次々と必要となり、さらに本年1月に発令された2度目の緊急事態宣言が3月まで延期されるなど、丸1年コロナ禍に翻弄されることとなりました。これまでとは異なる状況下で私たちのビジョン「音楽でつながり、音楽とともに生きる社会」を実現するには如何にすべきかについて、スタッフ一同が知恵をしばり、新たにリモート演奏、ライブ配信など、その時にできる音楽の分かち合い方を試行錯誤しましたが、やはり同じ空間で音楽を共有できる喜びは何にも代えられない幸せであることを、改めて認識いたしました。

1.1. ホール公演事業

ホール公演事業では、当初主催公演25公演、共催公演6公演、計31公演を予定していましたが、実際に実施できたのは主催公演16公演、共催公演4公演、計20公演でした。

コロナ禍での新しい試みについて振り返ると、まず、前年度の3月から5月に振替えた「ロビーでよちよちコンサート」は、緊急事態宣言中で実際に会うこともできない時期に演奏家が自宅で録画した動画を編集した「リモート演奏」をウェブサイトに載せ「おうちでロビーでよちよちコンサート」としました。その後、緊急事態宣言は解除されたものの、直後の6月に「第九」を演奏するはずだったトリトン晴れた海のオーケストラ（晴れオケ）の公演は延期とし、小さい編成で初めて無観客ライブ配信（無料）に挑戦しました。チケット代を払い戻さず寄付してくださった方も多く本当にありがたく感謝いたしております。

7月のオープンハウスもお客さまに会場頂ける目途が立たず、無観客でライブ配信。8月に初めて主催公演でお客さまをお迎えして、三浦一馬東京グランドソロイスツ公演を行いました。当時許容された客席収容率は半分でしたが、コロナ禍前に販売開始したチケットはすでに7割以上販売済みであったため、夜公演を追加して2公演としました。前例のない「チケット再配席」でしたが、会場したお客さまからは生演奏やコロナ禍での運営についてたくさんの賞賛、励ましのお言葉をいただきました。

収容率100%で開催できることとなった9月下旬以降も券売は厳しい状況が続き、特に平日昼間開催でシニア層が中心の顧客である「昼の音楽さんぽ」シリーズは大きな影響を受けました。ただ、12月の「クリスマス・オーケストラ・コンサート」は、ちょうど感染が落ち着いた10月下旬に発売開始したところ、グループごとに隣に空席を設けてのチケット販売ではありましたが、予定枚数が完売となりました。内容も、これまでのように小学生に舞台上で歌う、聴く体験をしてもらう代わりに、事前に質問や絵を募集してスクリーンに映すなどの新たな試みをしました。その後、1月に2度目の緊急事態宣言となり、収容率も半分に戻ったため、1年を通して、ホール客席の半数（383席）をこえてお客さまをお迎えできたのは、この公演のみとなりました。

12月と3月の「ロビーでよちよちコンサート」は、ソーシャルディスタンスが求められる中、対象を、よちよちできない0歳児と妊婦さんに変更し、1回12組に絞って実施しました。また、2月に行った645コンサートは、もともとホール近隣のオフィスワーカーを対象にしたものですが、在宅勤務が一般的になったこともあり、初めて客席チケットに加えて有料の「視聴券」も販売してライブ配信をしました。

実際にホールに来ていただくことが難しかった中で、10月の「竹澤恭子ベートーヴェン2大ヴァイオリン・ソナタ」にはNHK-FMの収録が入り、9月のクアルテット・エクセルシオと若手タレイア・クアルテット共演企画は、東京都の「アートにエールを！（ステージ型）」に採択され動画を配信するなどの広がりもありました。また次世代クアルテット応援企画としては、3月にもクアルテット・インテグラの鮮烈なデビューがありました。3月には、4歳から入場可の音楽と絵本コンサートの夜公演を初めて「大人向け」に実施、また、室内楽ホールを活かしたハイライト版オペラ、「佐藤美枝子の『蝶々夫人』」を実現するなどコロナ禍にあってもできることを模索しました。

海外からの演奏家の入国は難しく、招聘するはずだったマルメン弦楽四重奏団（イギリス）、ミロ・クアルテット（アメリカ）、そしてバボラーク・アンサンブル（チェコ）公演を2021年度に延期としました。

1.2. コミュニティ事業

当初43回実施予定でしたが、実際に行うことができたのは26回でした。

ホール事業と並んで活動の二本の柱としているコミュニティ活動の中でも、ホールに来られない方のもとへ音楽をお届けする「アウトリーチ」は、もともと演奏家の息遣いも感じられる小さな空間で、間近で演奏を聴いてもらう、といういわば「三密」が売りでした。まずはコロナ禍でどのように安全、安心に配慮して実施できるかが課題だったため、業界のガイドラインを基に、7月に「アウトリーチ関係者のための新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」を策定しました。緊急事態宣言明け、初めて実施した保育園アウトリーチは、演奏は中庭から、子どもたちには部屋の中から演奏を聴いてもらいました。

その後中央区の小学校でも10月から外部の講師受入れが可能となり、ガイドラインをもとに各校の要望や対策を伺いながら、コロナ禍での新しいアウトリーチの形を模索していきました。教室ではなく体育館で演奏者と子供たちとの距離を取ったり、トーク用マイクを持ち込んだり、手元をスクリーンに映したりという工夫もしました。箏の楽器体験と尺八との演奏鑑賞を組み合わせた「Meet the 和楽器」は、消毒のために箏爪の数を増やして対応しました。

コロナ禍で、本来は最も音楽をお届けしたい介護施設や病院などでのアウトリーチは難しくなり、DVDを作ってお届けした福祉施設もありましたが、実際に何うことができた施設では非常に喜んでいただきました。発達支援センターには、未就学児用に2回、DVDを作成してお渡し、YouTubeチャンネルでも発信したほか、アウトリーチを実施できなかった小学校にもこの動画を編集してDVDをお届けしました。

1.3. 人材育成事業

サポーター（ボランティア）は、継続して登録してくださった方が多かったのですが、コロナ禍でこれまでのように活動ができませんでした。3月になってようやく「0歳児と妊婦さんのためのコンサート」で2名、ロビーコンサートで2名に活動していただきました。オンライン（Zoom）での交流会は2回行いました。

インターンシップは、年度初めは受入れができず、秋から大学生1名に、ホール事業、コミュニティ事業で活動をしてもらいました。

若手演奏家支援としては「アウトリーチセミナー」で演奏家3名を募集しました。講師の松原勝也氏とともにオープンハウスでライブ配信に出演、その後、リハーサルを重ね、小学校2校でアウトリーチを行いました。オンラインで打ち合わせを重ね、オープンハウスでもトークなしで伝えるプログラムを考えるなど、コロナ禍ならではの取組みをしました。このアウトリーチセミナー修了生たちには、幼稚園や保育園、こども園などのアウトリーチに積極的に出演してもらい、若手演奏家に演奏の機会を提供するよ

うにしました。

1.4. NPO 組織運営体制

コロナ禍において働き方についても大幅な見直しが求められ、在宅勤務・時差出勤等を推進し、在宅勤務を支える各種システム環境の整備（在宅勤務パソコン・ネットワーク環境の導入）を行うとともに、web 会議システム等コミュニケーションツールの活用、ペーパーレス化の推進により業務効率向上を図りました。

監事による年 2 回の定例監査では特段の指摘事項はありませんでした。

財政面では、新型コロナウイルス感染症の影響による公演の中止・延期等によりチケット売上高が減少となるも、制作面での費用も減少したこと、また助成金・補助金等の獲得もあり、単年度黒字となりました。

2. 評価委員会による評価

2.1. 全体総括

Covid-19（新型コロナウイルス感染症）の世界的な感染拡大は、演奏者の国内外での移動や音楽ファンのライブ会場への来訪を著しく抑制した点で、トリトン・アーツ・ネットワークの20年の、また第一生命ホール的一般公開以来約70年の歴史における大きなできごととして記録されていくことになるでしょう。この報告の執筆時点（2021年5月）においても事態の収束はなお見通せません。

このような状況のもと、具体的な対応としては2020年4月以来再三にわたって内閣府が東京都などに緊急事態を宣言し、累次の感染対策が求められるなかで、トリトンアーツは主催公演の延期・中止、複数公演化・オンライン化、それらにともなう払い戻しなどの手続き、座席数の調整、アウトリーチ活動や人材育成プログラムの実施体制の変更など、さまざまな局面で工夫を重ね、これまで20年にわたる蓄積の先に計画されていた事業を可能な限り当初計画に近いかたちで実施し、できるだけ多くの人に（オンラインではない）ライブの演奏の場を提供し続けました。クラスターや感染の発生が確認されることなく主催事業を実施できたことと合わせて、評価委員会はまずその点を高く評価するものです。

コロナ禍において事業はさまざまな変更を迫られましたが、骨格としてはこれまでの活動のプロフィールは維持されています。トリトンアーツの特色あるコミュニティ事業は予定された43回中半数以上の26回実現できています。上記のとおり2021年度以降もこの状況は継続するとみられ、事業自体も当委員会によるその評価も引き続き感染対策という要因を切り離して行うことが困難かもしれませんが、インターネットを活用した活動（入場者ありでライブ配信のハイブリッド型の公演も試みられています）、また業務軽減など、コロナ禍を奇貨として今後の可能性を開く試みも確認できました。懸念された財政面では単年度黒字を達成しています。ただし個人会員の減少に関連して、コロナ禍と関係のない構造的な問題について対応されていなかったことについては、改善が必要と考えられます。

現代の本邦においては貴重な、人口が増加する晴海地区を拠点とするトリトンアーツが、室内楽ホールの特性を活かし、困難な時代にもその活動を柔軟に適応させ、とくに若年層を含む人々と音楽の出会いの契機を作り続けることが、引き続き期待されます。

2.2. 各論

以下、トリトンアーツの4つの事業、および事業間連携、計5つの評価区分に沿って、また2020年度第2回評価委員会でもまとめられた評価項目に従って、評価を報告します。各評価項目のうち下線付きのものは今後3年度にわたって評価する基本項目、下線なしのものは年度ごとに設定する目標項目を示しています。評価記号は第6期までのものを継承し ○:おおむね達成 △:一部未達成 ×:未達成 ? :判断保留 の4種とします。

2.2.1. ホール公演事業

①公演シリーズ・公演ごとのねらい、目的に沿った企画・制作の実施とフォロー 【○】

個々の公演の企画趣旨は明確です。多様なターゲット層にそれぞれ対応する内容が実施されており、また地域密着型の活動として、口コミによる宣伝効果や将来的な来場者の取り込みも期待できます。

②公演別集客目標・チケット売上目標達成 【○】

コロナ禍という条件のもとでの入場者数の目標設定は妥当であり、全体として善戦していると言えます。コロナ禍と関係なくそもそも集客が難しいと想像される弦楽四重奏のシリーズの集客目標は、2020年度目標時点までにすでに300人前後に引き上げられており、この目標はコロナ禍のもとでも基本的に変更不要でした。さまざまな公演でトリトンアーツの企画に触れてきたのちにクアルテットの催しに誘導で

きたという実績も確かめられます。

③ホール公演事業ラインナップ全体とビジョン、ミッションとの整合性 【○】

地域住民とのつながりを重視するビジョン、ミッションと対応する重要なプロジェクトが「トリトン晴れた海のオーケストラ」（以下「晴れオケ」）です。中央区での認知を高め、また「晴れオケ」メンバーと地域との関係が深まることが期待されますが、今年度は公演が延期・縮小無観客／ライブ配信公演への変更を余儀なくされたこともあり、それらの課題については本年度の条件のもとではほぼ達成されたとし、引き続き次年度以降の評価対象とします。またオンラインで開催されたオープンハウスについては、コロナ禍のもとでも地域との繋がりを深めるよう工夫されています。

2.2.2. コミュニティ事業

①アウトリーチのねらい、目的に沿った確実な実施とフォロー 【○】

これまでの実績をもとに着実に実施されています。学校や子どもたちに喜ばれていることが確かめられます。

②アウトリーチをはじめとするコミュニティ事業の実施場所・内容を含めた再検証 【○】

内容の充実のために常にさまざまな検証が行われています。なおアウトリーチの今後について次年度以降、単に数を増やす方向ではない可能性も含めた中期的な視野で検討することが望ましいとの指摘がありました。

③コミュニティ事業への組織的なバックアップ体制 【○】

複数のスタッフが連携してコミュニティ事業に取り組んでいます。

④アウトリーチ活動の効果に関するフォローアップ 【○】

アウトリーチ実施校の教員との連携が十分に行われています。なお2014年から基本的に同一の実施後アンケートの項目がそのままよいか、学習指導要領や各学校の教育目標等と照らし合わせた設問や、トリトンアーツの事業方針に絡む設問などを含める可能性について、次年度以降検討することが望まれます。

2.2.3. 人材育成事業

①アウトリーチセミナーでの受講生公募、集中セミナーの実施 【○】

計画通りに実施され、ふさわしい評価を得ています。

②アートマネジメント専門人材の育成と、育成機関としての役割向上 【△】

インターンシップについて、スタッフが限られているなかで受け入れのために工夫しています。専門人材の育成と育成機関としての役割向上という観点からは、トリトンアーツの事業で学んだ方々のその後のキャリアパスについて追跡調査するなど、どのような人を育てたのか把握する可能性について検討してはいかがでしょうか。

③アウトリーチで活躍できる若手演奏家中長期的な育成及び活動支援 【○】

トリトンアーツ独自の取り組みであり、他館とも連携し人材育成に取り組んでいます。今年度はとりわけ、コロナ禍で活動場所を失った若手演奏家にとってアウトリーチ事業は有効であったと考えられます。

2.2.4. NPO 組織運営体制

①コンプライアンス、情報資産保護の徹底 【○】

事務管理が組織全体で適切に行われています。

②働き方改革、業務の見直しによる生産性向上 【○】

遠隔会議の実施、ペーパーレス化など、全体として進捗しています。ただしコロナ禍のもとでは、生産性向上よりも感染対策に重点が置かれており、あらためて中期的な評価が必要と考えられます。

③継続的な財政基盤の充実による単年度黒字達成 【○】

(トリトンアーツからの報告 1.4.を参照。)

④評価委員会との連携 【○】

評価委員会とは適切に情報共有が行われています。

⑤ スタッフの人材育成 明確な具体的目標の設定 【△】

現時点では明確な目標は設定されていません。なおこの評価項目は今年度初頭にはありませんでした。

⑥事務局のリモートワーク実施状況及びその点での事業実施への影響回避 【○】

コロナ禍に起因するリモートワークによる事業実施への影響は少なかったと言えます。今後とも、働き方の多様性を図るため、リモートワークの利点をいかした運用を検討することが期待されます。

2.2.5. 事業間の連携

①アウトリーチセミナー・若手演奏家支援充実による事業間連携の推進 【○】

アウトリーチのための若手演奏家を育成する機会は十分に提供されており、育成される演奏家はホールの出演者としても活躍しています。後者においてトリトンアーツが育成した演奏家であることがわかりやすくアピールできればさらに望ましいところです。

②事業間連携としての オープンハウスによる、ホール周辺在住、在勤者はじめ、だれもが気軽に音楽を楽しむ機会の提供 【○】

そのような機会はオープンハウスによって提供されました。ただし、やむを得ずオンライン開催となったこともあり、ホール周辺在住者の参加が可視化されてはいません。

③活動理解促進のためのホームページ、SNS等の運用のチェック 【○】

可能な範囲で十分に活用されています。コミュニティ活動について動画によって会場の様子が伝えられるなら、さらにその魅力が伝えられる可能性があります。

④魅力的な活動の周知による支援者の拡充（寄付・会員数の向上） 【△】

コロナ禍という要因とは別に、第一生命職員の個人会員が定年を機に退会するという現象が増えており、あらかじめ予測可能であった構造的な問題について対応が行われていません。

⑤コロナ禍に鑑みた感染予防対策・活動の検証 【○】

公演の中止・延期や複数回実施、座席数の変更、アウトリーチ活動実施にあたっての配慮（「アウトリーチ関係者のための新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」の策定など）、公演開催時のチケットの目視確認など接触の低減化をはじめ、可能な範囲で十分な対策・活動が行われています。主催事業に関連するクラスターや感染の発生は確認されていません。

以上

資料編

1. 第一生命グループとの関係およびトリトンアーツ組織図

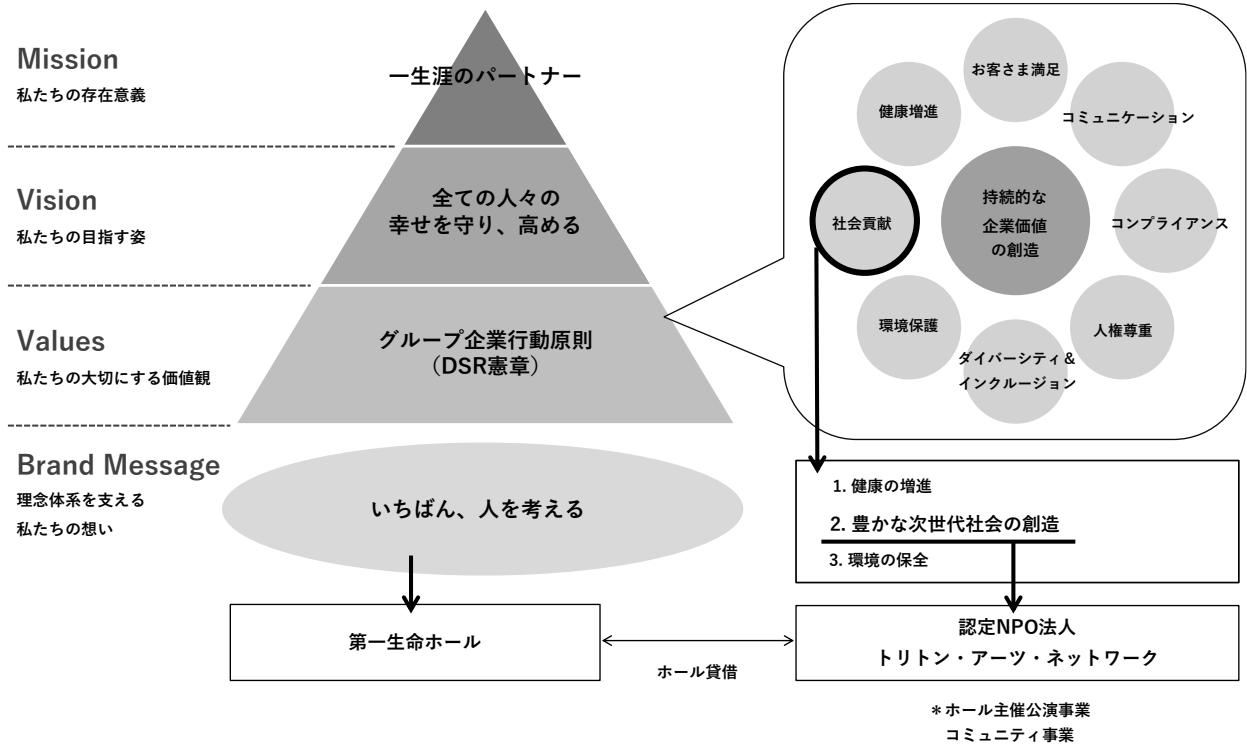


図 1-1. 第一生命グループとの関係

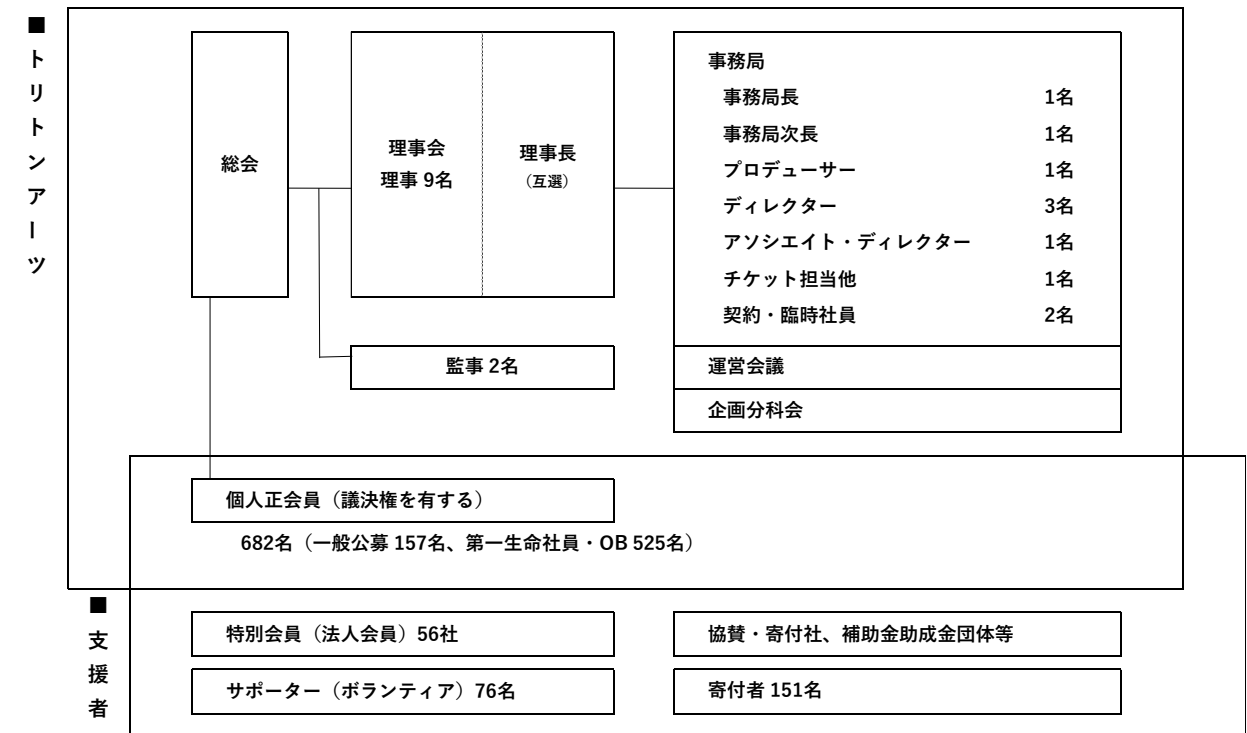


図 1-2. 組織図（数字は 2021 年 4 月現在）

2. ホール公演事業

公演入場料収入・入場者数

表 2-1. 公演入場料収入、主催・共催公演入場者数

公演入場料収入 (単位：千円)	10,591	6,850	4,883	7,565	9,594	9,721	9,091	13,188	21,856	20,479
年度	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
主催・共催公演入場者数 (招待含む) (単位：人)	14,258	11,641	11,201	9,125	10,035	12,074	9,592	9,837	14,501	11,501
公演入場料収入 (単位：千円)	20,909	23,372	18,322	24,350	25,164	25,260	25,102	26,453	24,910	13,470
年度	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
主催・共催公演入場者数 (招待含む) (単位：人)	12,513	11,403	10,094	13,174	14,721	13,083	14,727	14,818	13,217	5,477

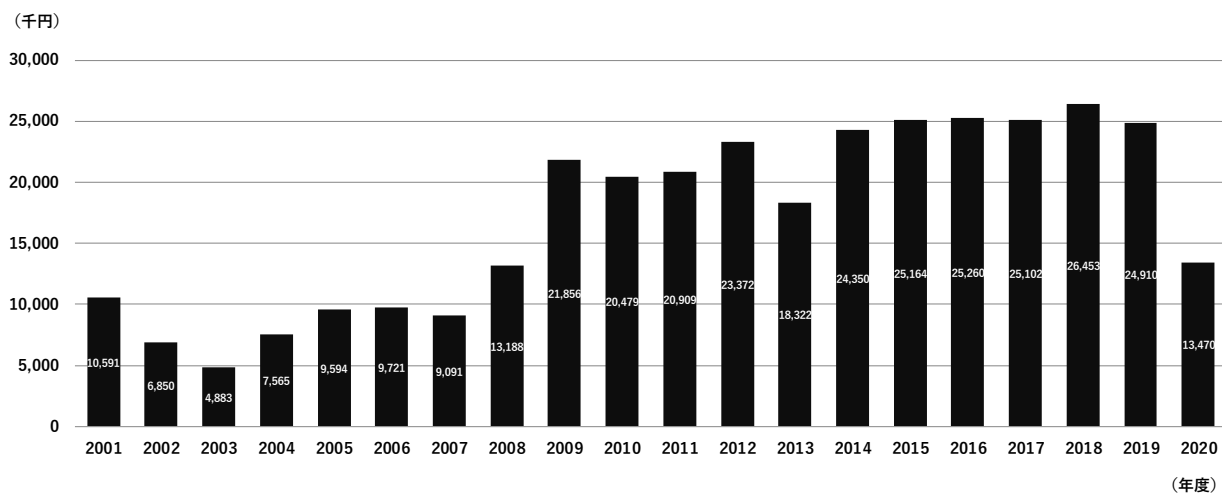


図 2-1. 公演入場料収入推移

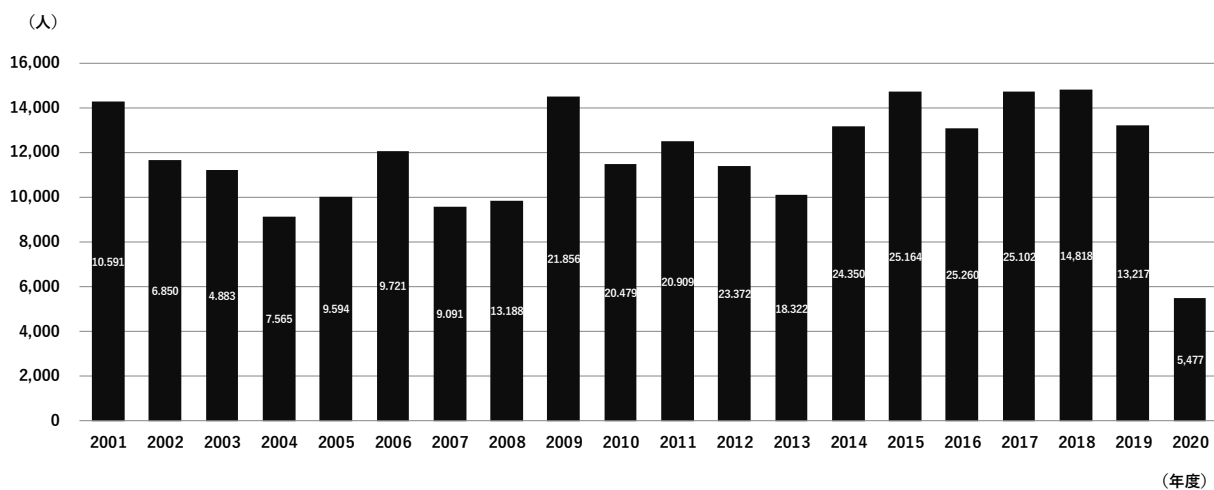


図 2-2. 主催・共催公演入場者数推移

3. コミュニティ事業

事業実施状況

表 3-1. アウトリーチ実施場所・実施回数

場所・回数	年度																	
	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
小学校	7	16	12	16	15	12	13	12	13	12	16	16	19	18	17	19	20	14
回数	9	16	13	18	15	12	20	21	24	18	20	19	19	18	18	20	20	14
幼稚園等	7	10	7	4	3	5	2	3	4	4	5	4	6	6	6	6	6	6
回数	8	11	7	4	3	5	2	3	4	4	5	4	6	6	6	6	6	6
病院・介護施設	9	11	8	5	4	7	4	3	1	2	2	2	4	5	5	5	5	2
回数	12	15	8	8	4	7	4	3	1	2	2	2	4	5	5	5	6	2
その他	3	4	5	6	5	4	4	3	2	3	4	3	2	2	8	14	9	4
回数	3	5	5	6	5	4	4	3	2	3	4	3	2	2	8	14	9	4
実施場所数計	26	41	32	31	27	28	23	21	20	21	27	25	31	31	36	44	40	26
実施回数計	32	47	33	36	27	28	30	30	31	27	31	28	31	31	37	45	41	26
協力企画	8	14	6	2	2	2	2	4	7	4	3	3	2	2	6	5	2	0

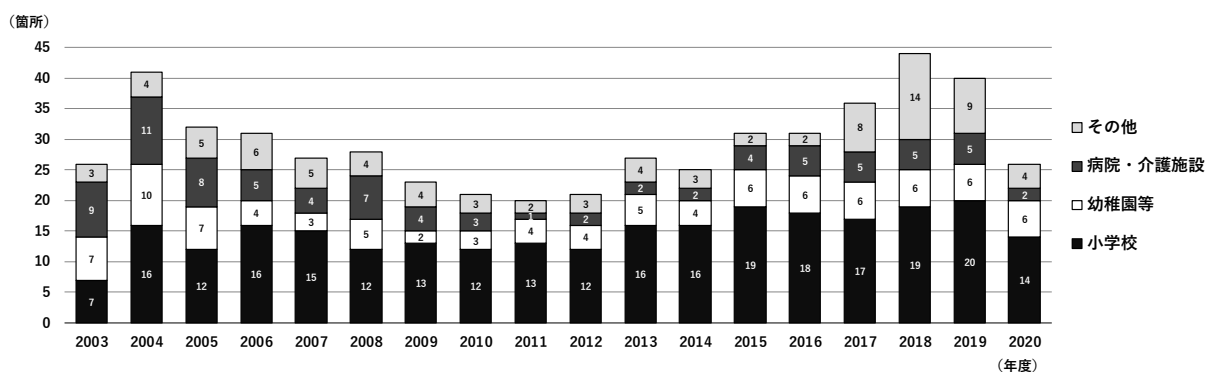


図 3-1. アウトリーチ実施場所推移

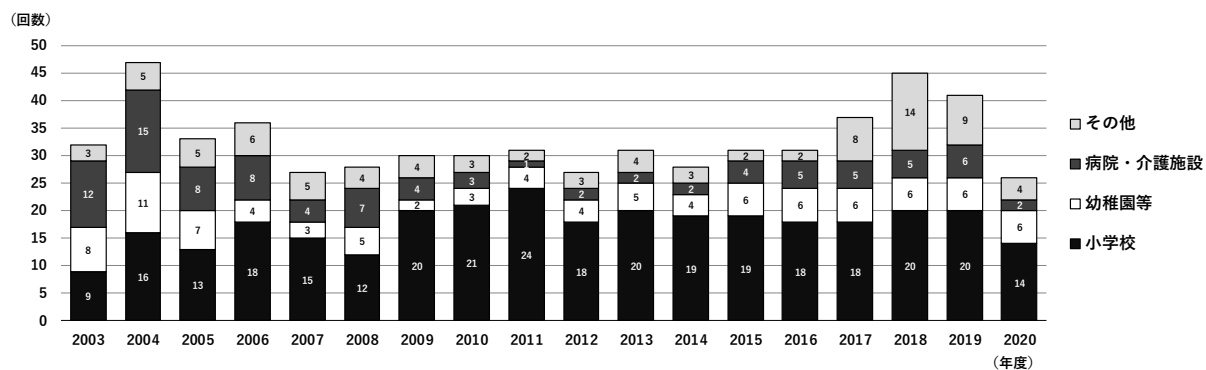


図 3-2. アウトリーチ実施回数推移

4. 人材育成事業

サポーター状況 (2021年3月31日時点)

表・図 4-1. サポーター数概要

	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
サポーター数	143	141	128	87	84	77	68	69	58	61	73	63	73	64	72	72	77	75	76
うち中央区民	40	37	27	18	19	20	17	23	20	20	24	21	24	22	17	21	20	16	19
実働数						35	60	62	58	61	73	63	61	52	58	70	63	60	4

(単位：人)

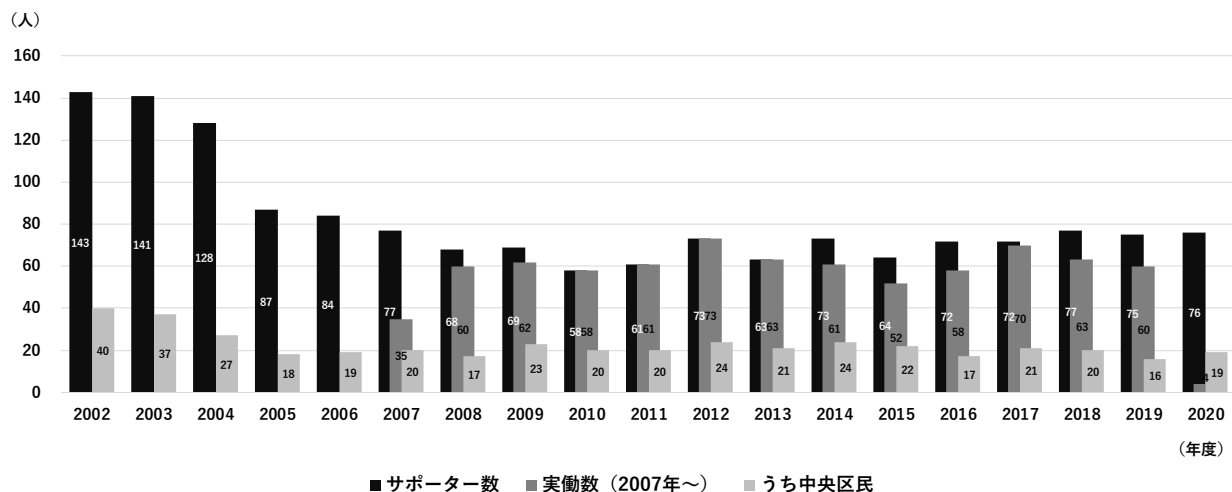
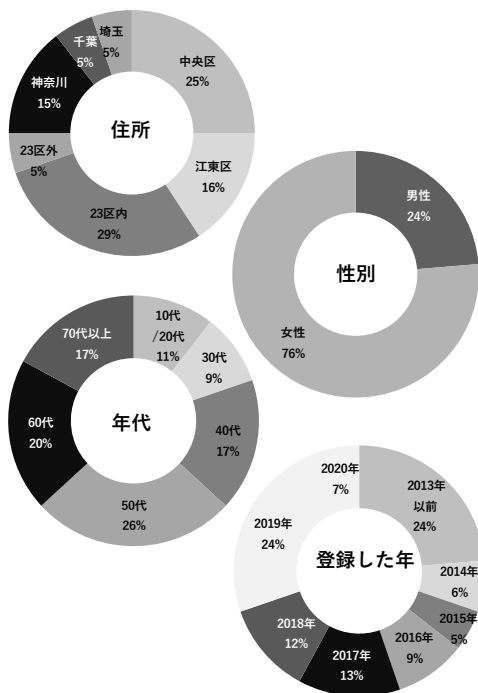


表 4-2. サポーター数推移・属性

年度	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
サポーター数	58	61	73	63	73	64	72	72	77	75	76
住所	中央区	20	20	24	21	24	22	17	21	20	19
	中央区外	38	41	49	42	49					
	江東区						8	8	11	11	12
	23区内						16	21	20	26	23
	23区外						6	6	2	1	4
	神奈川						6	10	8	11	11
	千葉						3	7	5	4	4
	埼玉						2	1	3	3	4
	茨城						1	2	2	1	0
静岡										1	
性別	男性	16	15	20	19	19	13	18	15	15	17
	女性	42	46	53	44	54	51	54	57	62	58
年代	10代/20代						7	16	13	19	10
	30代						3	5	3	4	8
	40代						14	15	17	15	9
	50代						10	10	11	12	20
	60代						18	16	15	15	14
	70代以上						9	10	13	12	14
	不明						3				
登録した年	2013年以前					41	28	23	20	20	18
	2014年					14	11	8	7	5	5
	2015年					14	8	8	5	4	4
	2016年						25	17	12	7	7
	2017年							16	15	10	10
	2018年								18	11	9
	2019年									18	18
2020年											5
新規登録 退会状況	新規登録	13	17	25	9	20	13	25	16	18	5
	退会	26	14	13	19	10	22	17	16	13	4

図 4-2. 2020年度サポーター属性



5. NPO ガバナンス

個人会員・特別会員（法人会員）・寄付等状況

表 5-1. 会員別年会費区分

個人正会員	1口 1万円	
特別会員（法人会員）	エステルハージ・サークル会員	1口 10万円（5口以上）
	ラズモフスキー・サークル会員	1口 10万円（2口以上～4口以下）
	ブラボー・サークル会員	1口 10万円（1口）

表 5-2. 会員状況・助成先・協賛先推移

年度 分類		2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
個人会員 (単位：口)		819	851	836	827	790	747	710	765	723	683	650	657	671	745	736	733	716	688
個人会費額 (単位：千円)		8,340	8,800	8,525	8,000	7,990	7,560	7,310	7,730	7,460	7,410	6,510	6,650	6,840	7,550	7,530	7,420	7,360	7,050
個人会員 内訳 (単位：口)	第一生命	505	523	513	505	486	458	447	516	502	481	455	463	484	567	563	566	554	525
	その他	314	328	323	322	304	289	263	249	221	202	195	194	187	178	173	167	162	163
年度 分類		2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
法人会員 (単位：口)		23	24	32	33	31	30	41	45	44	44	43	44	44	45	46	52	53	55
法人会費額 (単位：千円)		12,100	9,600	11,100	11,100	10,800	9,900	16,800	19,900	20,800	20,900	21,400	21,900	22,200	22,200	20,100	24,600	23,800	23,400
助成件数 (単位：件)		5	8	6	10	8	4	7	6	9	4	3	2	2	3	3	5	3	4
助成金額 (単位：千円)		4,600	6,050	6,100	12,200	11,018	6,034	10,795	6,649	14,262	10,048	9,148	9,103	7,515	5,670	8,560	10,560	9,879	11,655
協賛・寄付社件数 (単位：件)		2	2	3	3	3	3	3	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
協賛・寄付金額 (単位：千円)		71,090	63,604	61,650	61,198	61,170	65,730	69,801	55,500	50,600	48,500	48,600	48,800	50,000	53,750	50,450	49,304	51,604	50,979
個人寄付者 ※内諾者含む申込ベース (単位：名)											153	207	200	201	198	186	180	175	291
個人寄付金額 (単位：千円)											28	1,329	1,337	1,440	2,334	2,646	1,869	2,429	3,847

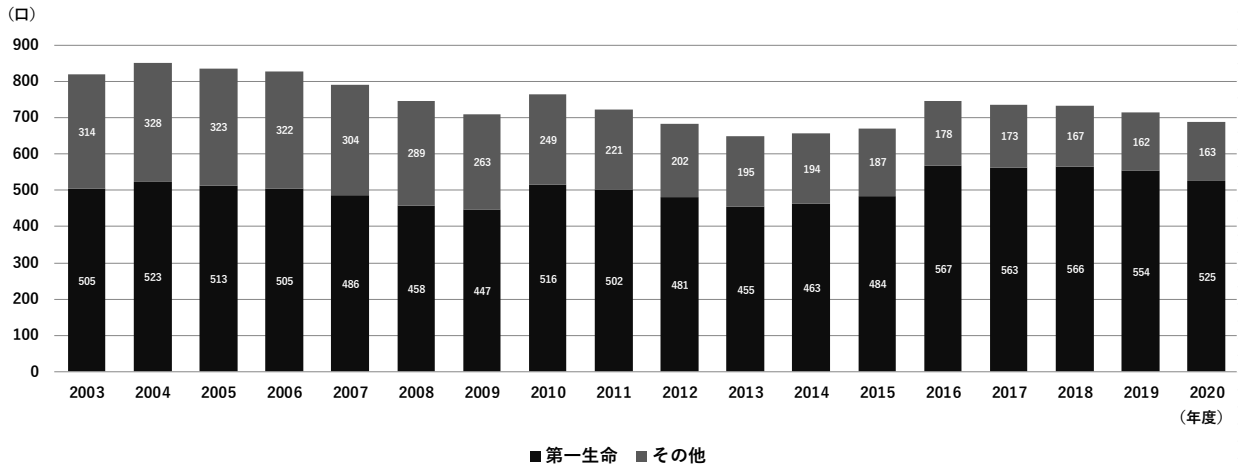


図 5-1. 個人会員数推移・内訳

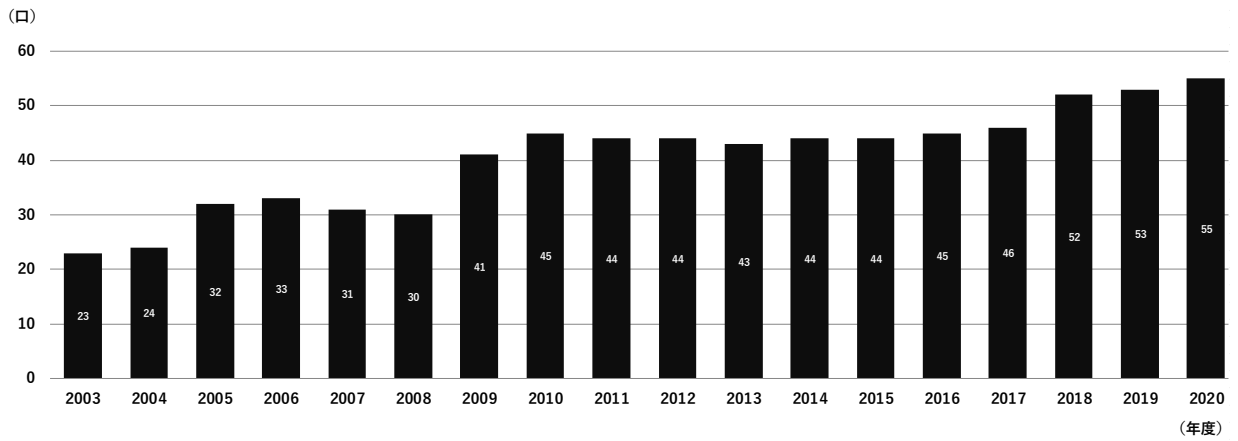


図 5-2. 法人会員数推移

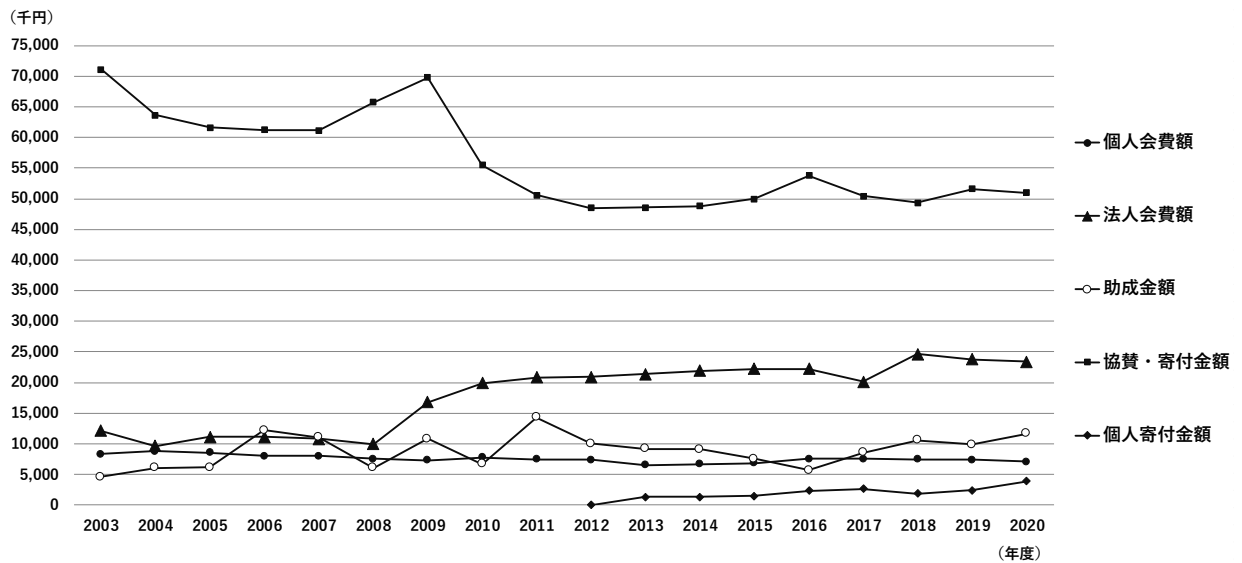


図 5-3. 会費・助成金・寄付金額推移

6. 2020年度トリトンアーツ主催公演における顧客分析抜粋

◎ 本データは、主にトリトンアーツ主催公演のトリトンアーツ・チケットデスクでのチケット購入者を対象に集計を実施。各プレイガイドでの購入者は集計対象には含まれていない。
2020年度対象公演のシリーズ別一覧は右図のとおり。

◎ 集計方法

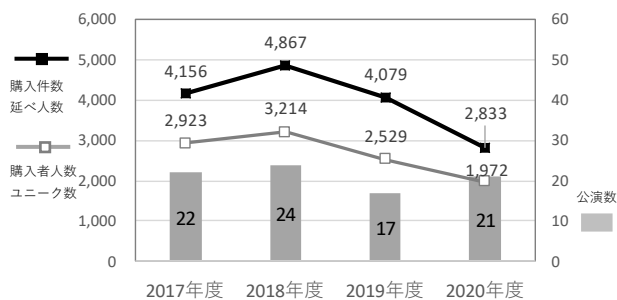
【購入公演数】 ⇒ 購入者人数（ユニーク数）で集計
その他 ⇒ 購入件数（延べ人数）で集計

◎ 「購入履歴無」の購入者＝初購入者

「購入履歴有」の購入者（2回目以降）＝リピーター と定義

◎ 顧客の性別・年齢はオンライン会員登録をしている顧客のみ集計（電話・来社予約等では性別・年齢情報は未確認。）

◎ 集計対象

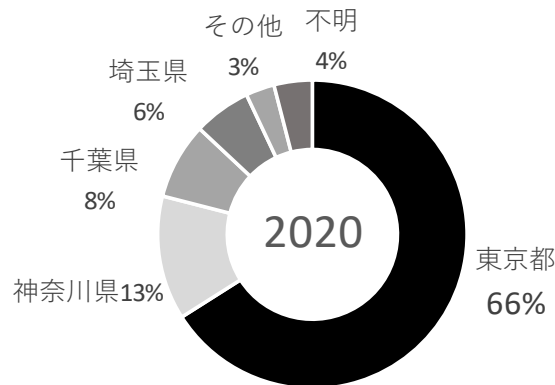


◎2020年度顧客分析対象公演

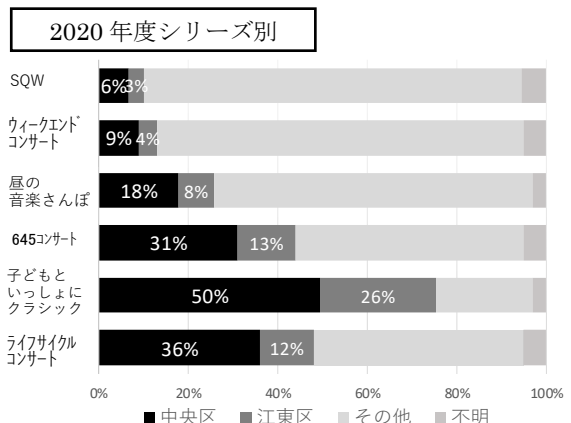
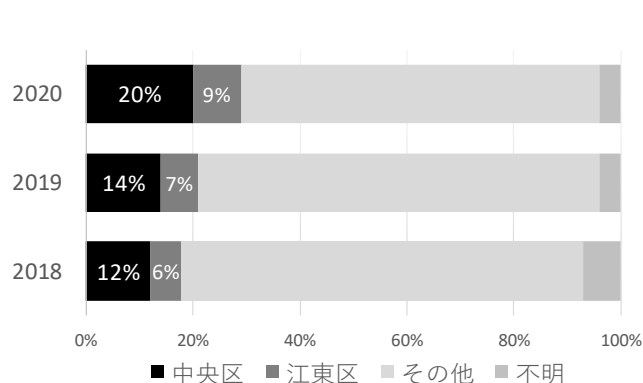
SQW	公演	公演名
1	9/25 (金)	クアルテット・エクセルシオ×タレイア・クアルテット
2	11/14 (土)	ウェールズ弦楽四重奏団～ベートーヴェン・チクルスIII
3	2021/1/15 (金)	ウェールズ弦楽四重奏団～ベートーヴェン・チクルスIV
4	2021/2/14 (日)	エルデーディ弦楽四重奏団 [共催]
5	2021/3/14 (日)	クアルテット・エクセルシオ×クアルテット・インテグラ
ウィークエンドコンサート 6公演		
1	8/23 (日)	三浦一馬 東京グランド・ソロイスト 第4回 昼公演
2	8/23 (日)	三浦一馬 東京グランド・ソロイスト 第4回 夜公演
3	10/24 (土)	室内楽の魅力 竹澤恭子ベートーヴェン2大ヴァイオリン・ソナタ
4	12/12 (土)	小山実稚恵の室内楽 小山実稚恵&川本嘉子 デュオII
5	2021/3/13 (土)	大人のための音楽と絵本コンサート『銀河鉄道の夜』
6	2021/3/20 (土)	室内楽ホールdeオペラ～佐藤美枝子の「蝶々夫人」
雄大と行く 昼の音楽さんぽ 3公演		
1	10/7 (水)	第22回 横坂源 (チェロ) 共演：北村朋幹 (ピアノ)
2	11/11 (水)	第23回 住谷美帆 (サクソフォン)
3	12/9 (水)	第24回 望月哲也 (テノール) & 青山貴 (バリトン)
645コンサート 1公演		
1	2021/2/10 (水)	木嶋真優リサイタル (ヴァイオリン)
子どもといっしょにクラシック 5公演		
1	9/12 (土)	和楽器で「音楽と絵本」コンサート [共催] (1回目)
2	9/12 (土)	和楽器で「音楽と絵本」コンサート [共催] (2回目)
3	12/19 (土)	クリスマス・オーケストラ・コンサート(1回目)
4	12/19 (土)	クリスマス・オーケストラ・コンサート(2回目)
5	2021/3/13 (土)	音楽と絵本コンサート『銀河鉄道の夜』
ライフサイクルコンサート 1公演		
1	2021/3/13 (土)	大人のための音楽と絵本コンサート『銀河鉄道の夜』

※1 8/23三浦一馬(昼公演、夜公演)、クリスマス・オーケストラ・コンサート(2回公演)は2公演として集計
※2 ロビーでよちよちコンサート(12月、2021年3月)は集計対象外
※3 共催公演(10月：住友ヤングシンフォニー、8月東京混声合唱団)は集計対象外
エルデーディ弦楽四重奏団、和楽器で「音楽と絵本」コンサートは共催だが集計

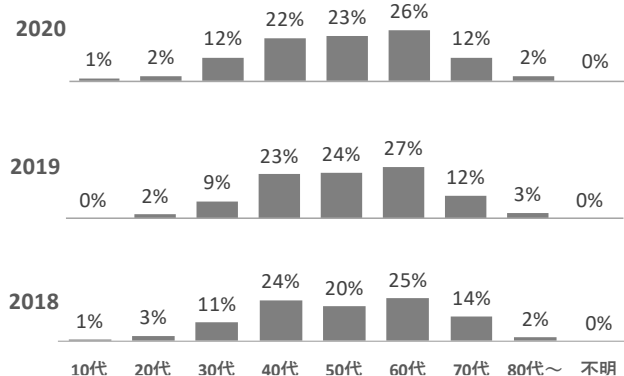
チケット購入者の居住地（オンライン予約&Tel・来社他）



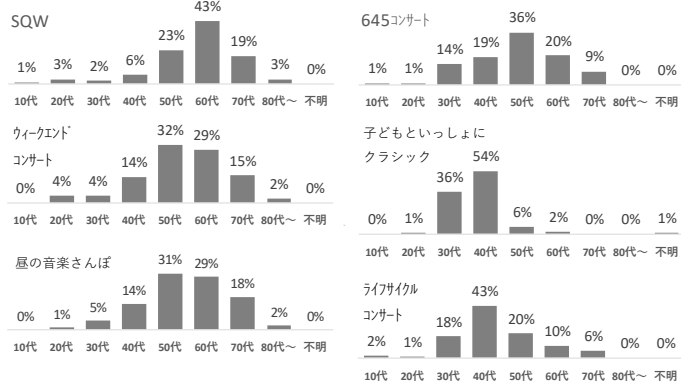
チケット購入者の年代（中央区・江東区が占める割合）（オンライン予約&Tel・来社他）



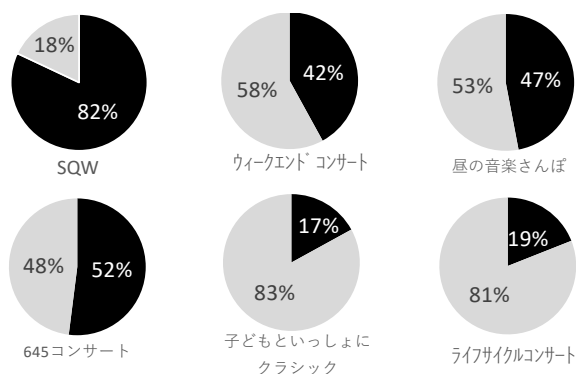
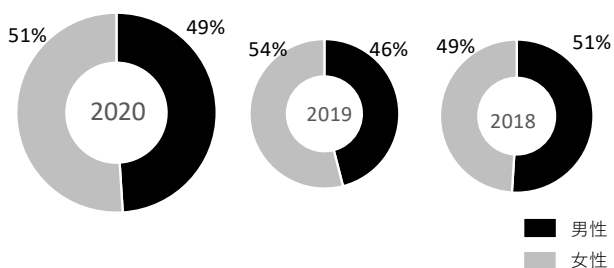
チケット購入者の年代（オンライン予約）



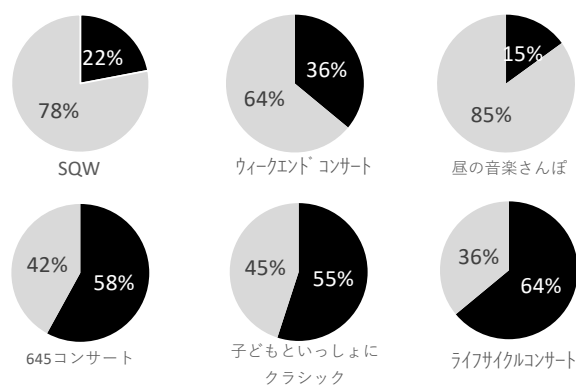
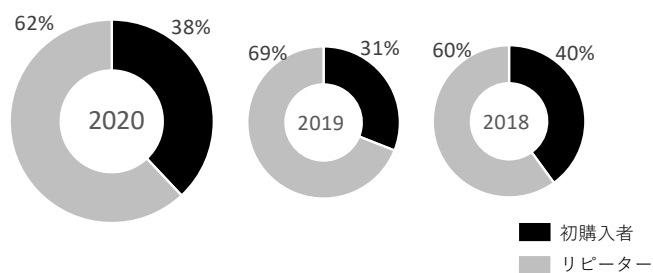
2020年度シリーズ別



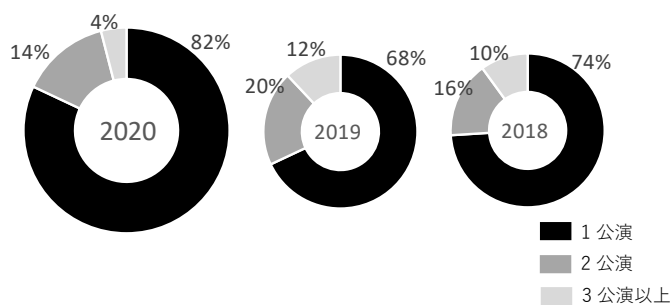
チケット購入者の男女比（オンライン予約）



初購入者・リピーターの割合（オンライン予約&Tel・来社他）



購入公演数（オンライン予約&Tel・来社他）



（出典：トリトンアーツ事務局作成資料）

認定特定非営利活動法人トリトン・アーツ・ネットワーク 2020 年度評価事業報告書
認定特定非営利活動法人トリトン・アーツ・ネットワーク評価委員会編

発行 2021 年 7 月

認定特定非営利活動法人 トリトン・アーツ・ネットワーク

〒104-6005 東京都中央区晴海 1-8-10

晴海アイランド トリトンスクエア オフィスタワー X 棟 5 階

TEL : 03-3532-5701 FAX : 03-3532-5703

URL : <http://www.triton-arts.net/>
